

HOME > イベント > 取締役・監査役大学講座

## ○ 取締役・監査役大学講座

### 取締役・監査役大学講座(第5期)

上場企業のコーポレート・ガバナンス確立の要請がますます高まり、取締役・監査役のガバナンス・リテラシーの向上が求められています。

コーポレート・ガバナンスの推進団体である「日本コーポレート・ガバナンス・ネットワーク(CGネット)」では、このようなニーズに応えるため、上場企業のボードメンバー(取締役および監査役)を主な対象として、グローバルに通用するコーポレート・ガバナンスの教育プログラム「取締役・監査役大学講座」を企画し、全3コース「ガバナンスコース」「企業価値コース」「役員責任コース」を順次開講。ボードメンバーに求められているガバナンス・リテラシーの向上の機会を提供します。

※今期から「取締役・監査役大学講座」と名称を変更しました(旧「取締役大学講座」)

#### ■ 第5期の構成・スケジュール

コース名	講座概要	開催時期
<a href="#">ガバナンスコース</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎現代コーポレート・ガバナンス総論(東京大学名誉教授 若杉敬明氏)</li> <li>◎グローバル大競争時代の経営戦略とコーポレート・ガバナンス(ATカーニー 梅澤高明氏)</li> <li>◎経営者報酬とコーポレート・ガバナンス(タワーズワトソン 阿部直彦氏)</li> <li>◎機関投資家の求めるIRの実践とコーポレート・ガバナンス(J-Eurus IR 高山与志子氏)</li> <li>◎証券取引所と上場会社のガバナンス(東京証券取引所 松崎裕之氏)</li> </ul>	2012年 4月～5月
<a href="#">企業価値コース</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎企業価値向上の基礎(バリュークリエイト 三富正博氏)</li> <li>◎企業価値創造の実務的な視点(バリュークリエイト 三富正博氏)</li> <li>◎過去の日本企業の買収失敗例に学ぶ、取締役・監査役にとってのM&amp;A基礎知識(早稲田大学大学院 服部暢達氏)</li> <li>◎企業価値を意識した有価証券報告書の読み方(一橋大学大学院 野間幹晴氏)</li> </ul>	2012年 5月～6月
<a href="#">役員責任コース</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎取締役・監査役の法的責務(青山学院大学大学院 浜辺陽一郎氏)</li> <li>◎役員の責任問題ケーススタディ1～判例を基に(さくら共同法律事務所 荒竹純一弁護士及び所属弁護士)</li> <li>◎役員の責任問題ケーススタディ2～判例を基に(さくら共同法律事務所 荒竹純一弁護士及び所属弁護士)</li> <li>◎監視役としての取締役・監査役が知っておくべきインサイダー問題(東証COMLECセンター長 保坂武志氏)</li> </ul>	2012年 7月

#### ■ 受講対象者

コーポレート・ガバナンスの確立を担うボードメンバー(取締役および監査役。社内・社外、常勤・非常勤問わず)を主な対象者としませんが、企業の役員候補者、コーポレート・ガバナンスのさらなる向上を目指す実務担当者・取締役会事務局、日本企業のガバナンス問題に関心を寄せる市場関係者の方々へもお勧めいたします。

※3コース全体で75%以上出席された方にはCGネット所定の「修了証」を発行します。

(ご欠席者には復習の機会を提供して出席と見なします)

## ○ 取締役・監査役大学講座

[→イベントトップ](#)

### ガバナンスコース(第5期)

2011年の上場企業の相次ぐ企業不祥事発生や、法制審議会会社法制部会で会社法制改正の議論に注目が集まっていることから、上場会社のコーポレート・ガバナンスのあり方に再び注目が集まっています。企業経営の監視役である取締役および監査役は、このような動向を的確にとらえ、自身の責務を果たすために、グローバルに通用するコーポレート・ガバナンスの基礎知識を習得することが求められています。

本「ガバナンスコース」では、取締役・監査役が押さえておきたいコーポレート・ガバナンスのポイントをさまざまな角度から取り上げます。第1講では、コーポレート・ガバナンスの根幹にある資本主義の基本的な考えから、コーポレート・ガバナンスに至るまでの理論的側面を学びます。第2講では、グローバル大競争時代の経営戦略を迅速かつ適正に遂行するためのガバナンスのあり方、ボードの役割について、内外の事例を踏まえながら学びます。第3講では、最近開示が進んでいる経営者・役員報酬をコーポレート・ガバナンスの視点から学ぶとともに、対資本市場、特に機関投資家を意識したIRとコーポレート・ガバナンスのあり方について学びます。第4講では、上場企業のボードメンバーが知ってほしいコーポレート・ガバナンスを上場制度の観点から学びます。

#### ■ ガバナンスコースのカリキュラム

コース名	講座概要
第1講 2012年4月18日(水) 18:30~20:30	『現代コーポレート・ガバナンス総論』 若杉 敬明 氏 東京経済大学経営学部 教授、東京大学 名誉教授
第2講 2012年4月24日(火) 18:30~20:30	『グローバル大競争時代の経営戦略とコーポレート・ガバナンス』 梅澤 高明 氏 A.T.カーニー 日本代表/グローバル取締役会メンバー
第3講 2012年5月11日(金) 18:30~20:30	『経営者報酬とコーポレート・ガバナンス』 阿部 直彦 氏 タワーズワトソン マネージングディレクター 経営者報酬部門統括 『機関投資家の求めるIRの実践とコーポレート・ガバナンス』 高山 与志子 氏 ジェイ・ユース・アイアール マネージングディレクター、取締役
第4講 2012年5月17日(木) 18:30~20:30	『証券取引所と上場会社のコーポレート・ガバナンス』 松崎 裕之 氏 東京証券取引所 上場部長

#### 講師略歴

**若杉 敬明** (わかすぎ・たかあき): 第1講  
東京経済大学経営学部 教授、東京大学 名誉教授  
日本コーポレート・ガバナンス・ネットワーク 理事、日本コーポレート・ガバナンス研究所 所長  
東京大学経済学部卒業、東京大学大学院経済学研究科修了。  
東京大学経済学部助手、横浜市立大学商学部助教授、東北大学経済学部助教授、東京大学大学院経済学研究科教授を経て現職。専門は、コーポレート・ガバナンス、コーポレート・ファイナンス。  
日本水産(株) 社外取締役。過去には、(株)リコーで社外取締役、JFEホールディングス(株)と(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモで社外監査役を務めた経験を持つ。  
日本のコーポレート・ガバナンス理論の最高権威。

**梅澤 高明** (うめざわ・たかあき): 第2講  
A.T.カーニー 日本代表/グローバル取締役会メンバー  
東京大学法学部卒、マサチューセッツ工科大学経営大学院修士(MBA)。日産自動車を経てA.T.カーニーのニューヨーク・オフィスに入社。4年間に亘り米国企業の経営改革や戦略立案に携わる。東京オフィス異動後は、消費財、ハイテク、メディア、エネルギー、総合商社などのクライアントを支援。特に、グローバル戦略、グループ経営・ポートフォリオ戦略、組織・ガバナンス改革に豊富なプロジェクト経験を持つ。  
グロービス経営大学院客員教授。東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム講師、ISLファカルティ、神戸大学非常勤講師。フジテレビ「新報道2001」、テレビ東京「モーニング・サテライト」などの報道番組にコメンテーター出演。  
著作に『ストレッチ・カンパニー』(翻訳、東洋経済新報社)、『グループ経営戦略と管理』(共著、企業研究会)。経済産業省「産業構造ビジョン2010」策定支援(文化産業立国、インフラ輸出)。同「クール・ジャパン官民有識者会議」委員。

**阿部 直彦** (あべ・なおひこ): 第3講(前半)  
タワーズワトソン マネージングディレクター 経営者報酬部門統括  
タワーズワトソンにてマネージングディレクター、タレント&リワードセグメントリーダー及び経営者報酬部門統括として大手日本企業向けコンサルティング活動に従事する。上級経営者の報酬制度に関する全ての分野(基本報酬、短期インセンティブ、長期インセンティブ、その他ベネフィット)の戦略立案、制度設計・導入および社外取締役報酬に関して数多くのプロジェクト実績を持つ。タワーズペリン入社前は、ピートマーウィック社ロサンゼルスオフィスにて報酬・業績管理分野日系企業担当ディレクターとして従事した。広義塾大学商学部卒業

入念にて報酬・業績管理方針と企業価値向上イニシアチブとして従事した。心算塾入学生同好部卒業。  
日本コーポレート・ガバナンス・フォーラム専門委員(2001年度まで)、日本取締役協会幹事、「制度インフラと透明性委員会」の「経営者報酬ワーキング・グループ」座長(2004年度)。

**高山 与志子** (たかやま・よしこ):第3講(後半)

ジェイ・ユーラス・アイアール(株) マネージングディレクター、取締役

東京大学経済学部卒。エール大学経営大学院卒MBA取得。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了、博士号取得(社会情報学)。

ICGN(国際コーポレート・ガバナンス・ネットワーク)理事、日本コーポレート・ガバナンス・ネットワーク理事、地方公務員共済組合連合会資金運用基本問題研究会委員、全米IR協議会会員

メリルリンチ証券会社ニューヨーク本社に入社後、ニューヨーク、ロンドン、東京の投資銀行部門にて、日本企業の国内外での資金調達、M&Aなどに関するアドバイスをを行う。トムソン・ファイナンシャル・インベスター・リレーションズのアジア・パシフィック地域ディレクターを経て、2001年から、IRコンサルティング会社、ジェイ・ユーラス・アイアール(株)にて、IR活動のコンサルティング(国内外株主の分析と理想的な株主構成の構築、機関投資家に対するパーセプションスタディの実施・分析、平時および有事における株主総会支援等)、および、コーポレート・ガバナンス関連のコンサルティング(資本市場に対するメッセージの発信とコミュニケーション手法の確立、ガバナンスの形式と実態のギャップに関する対応等)を行う。

主な著書

『社外取締役のすべて - 役割は何か/担い手は誰か』(共著、東洋経済新報社、2004年)

『株主が目覚める日 - コーポレート・ガバナンスが日本を変える』(共著、商事法務、2004年)

『機関投資家対応 IR・株主総会マニュアル』(共著、中央経済社、2007年) 等

**松崎 裕之** (まつざき・ひろゆき):第4講

(株)東京証券取引所 上場部長

1986年、横浜国立大学経営学部卒業。同年、東京証券取引所入所。

債券総務課、株式総務課、総務部総務室などを経て、2001年11月、経営企画部課長。2003年6月、売買審査部グループリーダー。2008年6月、上場管理部課長。2009年6月より現職。上場会社のコーポレート・ガバナンス向上や適時開示制度の見直しなどの上場制度の総合整備などに尽力している。現在、IFRS対応会議教育・研修委員会委員、財団法人財務会計基準機構基準諮問会議委員、株式会社ICJ取締役を務める。

## ○ 取締役・監査役大学講座

### 企業価値コース(第5期)

上場会社の取締役・監査役は、コーポレート・ガバナンスの担い手であるとともに、企業価値の向上と毀損の防止を担う存在でもあります。自社の企業価値をしっかりと見定め、それを目標として経営とガバナンスとをバランスをとっていく必要があります。

本「企業価値コース」では、ボードメンバーが認識しておくべき企業価値について様々な角度から学びます。第1～2講で企業価値の基礎から広範な実務的視点まで学び、第3講では、豊富な国内企業の事例からボードメンバーにとって必須となるM&A知識の習得を目指します。第4講では、重要な開示資料である有価証券報告書に焦点を当て、企業価値の観点からボードメンバーが把握しておくべき点、見落としがちな点について学びます。

#### ■ 企業価値コースのカリキュラム

コース名	講座概要
第1講 2012年5月23日(水) 18:30～20:30	『企業価値向上の基礎－見える資産と見えない資産』 三富 正博 氏 (株)バリュークリエイト 代表取締役、公認会計士
第2講 2012年5月30日(水) 18:30～20:30	『企業価値創造の実務的な視点－見えない資産を磨く』 三富 正博 氏 (株)バリュークリエイト 代表取締役、公認会計士
第3講 2012年6月4日(月) 18:30～20:30	『過去の日本企業の買収失敗例に学ぶ、取締役・監査役にとってのM&A基礎知識』 服部 暢達 氏 早稲田大学大学院ファイナンス研究科 客員教授、一橋大学大学院国際企業戦略研究科 客員教授
第4講 2012年6月12日(火) 18:30～20:30	『企業価値を意識した有価証券報告書の読み方－戦略と会計』 野間 幹晴 氏 一橋大学大学院国際企業戦略研究科 准教授

#### 講演概要・講師略歴

**三富 正博** (みとみ・まさひろ): 第1講、第2講  
株式会社バリュークリエイト 代表取締役、公認会計士

##### 【講演概要】

グローバルな公認会計士として財務諸表や監査の経験を積み、現在は、企業価値創造の注目コンサルタントとして活躍されているバリュークリエイトの三富氏による講義では、財務が専門でない取締役・監査役にとって押さえておくべき企業価値創造について学びます。ROE、PER、PBRの関係を明らかにすることから始まり、企業価値と株価の関係、貸借対照表に載る「見える資産」・載らない「見えない資産」、見えない資産の重要性、非財務系の役員が知っておくべき企業価値創造プロセス、リーダーシップとコミュニケーション等について、企業価値が創造された実例を交えて広範な知識を習得します。

##### 【講師略歴】

1987年、青山学院大学経営学部卒業後、アーサー・アンダーセン東京事務所に入所。1991年、アメリカに転勤。以降9年間、マーケティング、リスク管理、プロジェクト管理、顧客管理、品質管理、人事・教育、ナレッジ・マネジメントなどの「見えない資産」のマネジメントを実践する。2000年に日本に帰国、ベンチャー企業CFOを経て2001年に株式会社バリュークリエイトを設立。ベンチャー企業から従業員が1万人以上のグローバル企業まで企業の規模や業種を問わず、企業の経営者に「五つの資産TM」と「バリュートライアングルTM」を使って企業価値創造の視点からの経営アドバイス、マネジメントチームの構築、次世代経営者の育成サポートを行っている。著書に「企業価値評価の基本と仕組みがよ〜わかる本」(共著、秀和システム、2005年)、「目的別7ステップ財務分析法」(税務経理協会、2010年)、「ワクワク会社革命」(講談社、2010年)がある。日米公認会計士。慶應義塾大学ビジネススクール講師。

**服部 暢達** (はっとり・のぶみち): 第3講  
早稲田大学大学院ファイナンス研究科客員教授  
一橋大学大学院国際企業戦略研究科客員教授  
服部暢達事務所 代表取締役

##### 【講演概要】

投資銀行で数々のM&A案件を手掛け(講師略歴参照)、現在はビジネススクールで教鞭をとる傍らM&Aの研究活動を行われている服部氏による講義では、ボードメンバーが押さえておくべきM&Aについて学びます。世界および日本のM&A市場動向・M&Aの阻害要因と最近の変化を概観した後、日本企業・外国企業のM&Aの失敗例、成功例について豊富な事例をもとに解説いただきます。これらを踏まえてM&Aの成功と失敗の原因分析を行うことで、取締役・監査役が自社の取締役会でM&A案件の決議を求められた時、最低限チェックすべきM&A基礎知識の習得を目指します。

**【講師略歴】**

1981年3月、東京大学工学部卒業。日産自動車を経て89年6月、マサチューセッツ工科大学(MIT)スローン・スクール経営学修士課程卒業。89年より03年まで米国系大手投資銀行にて日本におけるM&Aアドバイザー業務を担当。98年からはマネージング・ディレクターとして同業務を統括。日本リースのリース事業のGEキャピタルへの売却、第二電電・KDD・日本移動通信の三社合併、ロッジユによる中外製薬の買収、NKKと川崎製鉄の経営統合など日本企業が関係する大型案件を数多く手がけた。03年10月より一橋大学大学院国際企業戦略研究科にて、また09年4月より早稲田大学大学院ファイナンス研究センターにてM&Aと企業価値評価の講義を担当するかたわら、有限会社服部暢達事務所を設立して、日本における株主価値増大に資するM&Aの研究・評論活動を行っている。

**主な論稿**

「M&A最強の選択」(日経BP社 2006年2月)

「LBOブーム到来は必然」(日本経済新聞 2006年4月、経済教室)

「検証 日本の敵対的買収」(日本経済新聞出版社 2007年7月)(共著)

「実践M&Aハンドブック」(日経BP社、2008年1月)

「日本のM&A「買い」に偏り、価値創出へ綿密な計画を」(日本経済新聞 2010年6月、経済教室)

「金融サービスのイノベーションと倫理」(中央経済社、2011年3月)(共著)

**野間 幹晴 (のま・みきはる): 第4講**

一橋大学大学院国際企業戦略研究科 准教授

**【講演概要】**

企業価値評価を専門分野とし、親子上場や独立役員などのガバナンス問題について様々な実証研究を行っている野間准教授による講義は、上場会社にとって最も重要な開示資料の一つである有価証券報告書(有報)に焦点を当てます。

前段で有報を読むための基本となる損益計算書、貸借対照表、運転資本、キャッシュフロー(営業、投資、財務および三つの関係)などの基礎を学び、さらに日本企業の課題として、株主還元とR&Dや設備投資について理解を深めます。その上で、粉飾決算のあった企業の有報の実例を見ながら、取締役・監査役がチェックすべき点、見落としがちな点を解説いただく予定です。

(粉飾決算のケーススタディーは事前に資料を配布します)

**【講師略歴】**

一橋大学商学部卒業、一橋大学大学院商学研究科博士課程修了。博士(商学)。

横浜市立大学商学部を経て現職。2010年より2011年までコロンビア大学ビジネススクール・フルブライト研究員。

専門は、アカウントティング、企業価値評価、コーポレート・ファイナンス。

主要著書に、『日本企業のバリュエーションー資本市場における経営行動分析』(中央経済社、2009)、『コーポレート・ファイナンス入門』(共立出版、2005)、「日本企業の競争力はなぜ回復しないのかー配当行動と投資行動をめぐる2つの通説への反駁」『一橋ビジネスレビュー』(2010年秋号)など

。

東京証券取引所「上場制度懇談会ディスクロージャー部会」委員。

## ○ 取締役・監査役大学講座

[→イベントトップ](#)

### 役員責任コース(第5期)

グローバル化の進展と株主の高度化、企業不祥事の続発を受けて、(潜在的にはあった)取締役・監査役のリスクが顕在化しています。取締役・監査役は、自社の置かれた環境と自身のリスクを認識しながら、上場会社のボードメンバーとしての責務を遂行し、企業価値の最大化・毀損防止のために適切に対処していく必要があります。

本「役員責任コース」では、グローバルかつ環境変化の速い中での取締役・監査役が認識しておくべき自身の責任問題について集中的に取り上げます。会社法等における取締役・監査役の法的責務についての基礎をしっかりと学んだ後、実際に役員が問われた判例のケーススタディを2回に分けてじっくり時間をかけて学びます。さらに、昨今摘発事例が増えているインサイダー取引について、取引の影響・概要、未然防止策、実際の事例について学んでいきます。

#### ■ 役員責任コースのカリキュラム

コース名	講座概要
第1講 2012年7月3日(火) 18:30~20:30	『取締役・監査役の法的責務』 浜辺 陽一郎 氏 青山学院大学大学院法科学研究科 教授、弁護士法人早稲田大学リーガルクリニック 弁護士
第2講 2012年7月9日(月) 18:30~20:30	『役員の責任が問われたケーススタディ1~判例を基に』 荒竹 純一 氏 さくら共同法律事務所 パートナー弁護士 及び 所属弁護士
第3講 2012年7月18日(水) 18:30~20:30	『役員の責任が問われたケーススタディ2~判例を基に』 荒竹 純一 氏 さくら共同法律事務所 パートナー弁護士 及び 所属弁護士
第4講 2012年7月24日(火) 18:30~20:30	『監視役としての取締役・監査役が知っておくべきインサイダー問題』 保坂 武志 氏 東京証券取引所自主規制法人 東証COMLECセンター長

#### 講師略歴

**浜辺 陽一郎** (はまべ・よういちろう): 第1講  
青山学院大学大学院法科学研究科 教授  
弁護士法人早稲田大学リーガルクリニック 弁護士

#### 【学歴】

1994年12月 ニューヨーク州司法試験合格  
1992年12月 米国インディアナ州立大学ロースクール(ブルーミントン)法学修士(LLM)取得  
1985年-1987年 最高裁判所司法研修所第39期司法修習生  
1985年3月 慶応義塾大学法学部法律学科卒業  
1984年10月 司法試験合格(4年生在学中)

#### 【主要職歴】

2010年4月-現在 青山学院大学大学院法務研究科(法科大学院)教授  
2009年4月-2010年3月 青山学院大学大学院法務研究科(法科大学院)特任教授  
2006年11月-現在 早稲田大学リーガル・クリニック 弁護士  
2004年4月-2009年3月 早稲田大学大学院法務研究科(法科大学院)教授(専任・客員教授)  
2002年12月-2006年10月 森・濱田松本法律事務所(パートナー)  
2000年7月-2002年11月 濱田松本法律事務所(パートナー)  
1987年4月-2000年6月 国内外の法律事務所に所属

#### 【主な外部活動】

2009年4月-現在 早稲田大学法学部非常勤講師、特別研究員等  
2010年4月-現在 ビジネス・ブレークスルー大学経営学部教授  
2010年10月-現在 衆議院職員倫理審査会委員

#### 【最近の主要著書】(共著等を除く)

・PHPビジネス新書「コンプライアンスの実践知識」(PHP研究所2011年12月)  
・「弁護士が多いと何がよいのか」(東洋経済新報社2011年11月)  
・「図解 新会社法のしくみ(第2版)」(東洋経済新報社2006年6月、第2版2011年9月)

- ・「会社法完全対応版 よくわかる監査役になったら事典」(中経出版2008年7月)
  - ・「執行役員制度－導入のための理論と実務」(東洋経済新報社1999年、第二版2000年、第三版2003年、第四版2008年2月)
  - ・平凡社新書「会社法はこれでいいのか」(平凡社2007年9月)
  - ・「新会社法対応版 よくわかる取締役になったら事典」(中経出版2007年3月6日)
  - ・「図解 コンプライアンス経営」(東洋経済新報社1999年12月9日、改訂版2003年10月、第3版2006年10月)
  - ・中公新書「コンプライアンスの考え方」(中央公論新社2005年2月)
- 他多数。

**荒竹 純一** (あらたけ・じゅんいち):第2講、第3講  
さくら共同法律事務所 パートナー弁護士

東京弁護士会所属、慶應義塾大学法学部卒、弁護士資格取得後さくら共同法律事務所入所、会社法関連訴訟を中心に業務を行う、多くの敵対的M&A事案に関与、ニューヨーク市コロンビア大学ロースクール入学、修士号(LLM)取得、ニューヨーク市のSKADDEN,ARPS,SLATE,MEAGHER&FLOM法律事務所入所、その後さくら共同法律事務所パートナーとして復帰。  
著名な多くの敵対的M&A事件や役員責任の追及事件(測量大手(東証1部)、スーパー大手(東証1部)、自動車部品大手(東証1部)、建設大手(東証2部)、造船大手(大証1部)、ドラッグストア大手(ジャスコ)などに関与、買収側とこれに対抗する経営側の利害の対立が先鋭化する過程で、買収側からする株主代表訴訟による取締役及び監査役の責任追及や、敵対的買収完了後、買収された会社が旧経営陣に行う取締役及び監査役に対する責任追及事案などを多く手がける。

**保坂 武志** (ほさか・たけし):第4講  
東京証券取引所自主規制法人 東証COMLECセンター長

1980(S55)年3月中央大学法学部卒業、同年4月東京証券取引所入所。株式部、人事部、債券部、財団法人企業財務制度研究会出向などを経て、売買審査部・審査担当、その後取引相談・研修担当として上場会社等でのインサイダー取引防止のための社内研修講師を務め、2011(H23)年6月より現職。